



話 童

ちい坊の初夢

永 谷 年 恵

ちい坊は、朝目を覺ますと、

『お母さん、キヤラメル頂戴。』

と言つて、床の中でキヤラメルをしゃぶりました。

起きると、

『お母さん、おせんべ頂戴。』

と言つて、朝御飯を食べないで、おせんべをかぢりました。お十時になると、

『お母さん、餡ころ餅——。』

と言つて、餡ころ餅を頬張りました。お晝になる

『お母さん、チヨコレイト——。』

と言つて、チヨコレイトを食べました。お三時になると、

『お母さん、お饅頭——。』

と言つて、お饅頭をねだりました。そしてお饅頭を四つ食べて、もうあと一つ残つたのを食べようと思つて口の側まで持つて行くと、お饅頭がむく／＼と服れ出しました。ちい坊はびつくりして、お饅頭をほうち出しました。

ほうち出されたお饅頭は、どん／＼服れて、ボチのほうち見たやうな、あうちになりました。

其のうちに屋根もありました。小さい窓もありました。窓の戸があいてゐました。ちい坊は窓から、ちよいと中を覗いて見ました。すると綺麗なお部屋の真中に、白いきれの懸つたテーブルがあつて、其のテーブルの上に、キャンデーや羊羹や、餡パンや、カステラや、黒飴や、スキートボテトや、ざく／＼と一ぱい山盛りに盛りあげてありました。

ちい坊は涎をたらして、思はず窓の中へ首をつゝ込みました。すると、ちい坊の體は、する／＼つとお饅頭のおうちの中へ、滑り込んでしまひました。這入つて見ると、其處には、お菓子載せたテーブルなどはありません。花が咲いてゐたり池があつたりする、廣い／＼野原でありました。

ちい坊はびつくりして、べつたりと尻餅を搗いてしまひました。すると、地面がふか／＼のカステラでしたから、プカッとちい坊の體が跳ね上つ

てしまひました。ちい坊は益々驚いて、側に咲いてゐる白い花を一花摘んで嘗めて見ました。すると、其の花が皆上等の飴です。

ちい坊は、

「ヒヤア、うまいねー。」

と、大にこ／＼で一花しゃぶつてしまひました。其處で水が飲みたくなつて、池の水を飲んで見ましたら、それは、また、おいしい／＼、レモンのシロップでした。

其の時、雨が降り出しました。ばら／＼と降つて來たのは、雨かと思つたら、細かい／＼金米糖でした。赤や緑の美しい金米糖が、ひつきりなしに天から降つて來ます。ちい坊は、

「お菓子の雨だ、お菓子が降つて來たー。」

と叫んで、大きく口を開いて、金米糖を口の中へ降り込ませました。

其の中に、大粒のキャンデーが降り出しました。

新春

柳原燐子

「やあ、キャンデーだ、キャンデーが降り出した
」。

と、ちい坊は兩手を一ぱいに弘げて、溜めました。
すると、今度は餡パンが降り出しました。

「餡パンだ、餡パンだ」。

ちい坊は着物を脱いで受けました。

餡パンがあまりどつさり降つたので、ちい坊は
餡パンの中へ埋まつてしまいました。

「大變だ——、助けて——、助けて——」。

大聲で叫ぶと、

「ちい坊や、ちい坊や」

とお母さんがお呼びになりました。ちい坊は喜んで、
お母さんに飛びつきました。

「ちい坊や、夢を見たのかへ。」

お母さんに言はれて、ちい坊は目が覺めました。
それはちい坊の初夢でした。

あけてけさいくつと數ふ吾子の年一夜のうちけ
大さうなりしはも。

年あけて心すがしき幼らのかほ見つゝわれのお
もふことなし。

新らしき着物をさせて親のつとめよくせうとお
もふけさのよろこび。